

日時:令和6年7月23日(火)

午後13時30分から

場所:市役所3階 大会議室

1 発表項目

(1)「千年未来工芸祭2024」(資料1)

●クラフトフェス実行委員会からの説明

・山口実行委員長

実行委員長を務めております、越前箆笥産地代表のファニチャーホリック山口です。

千年未来工芸祭は、作り手との交流を通して、工芸の魅力を伝え、工芸や手仕事を身近に感じてもらうことで、工芸を未来に繋いでいくためのイベントで、今年で7回目の開催となります。

昨年は、160を超える作り手(キッチンカー含む)が集結し、2日間で12,000人を超える方に来場いただき、年々増加傾向にあります。

お子様連れのご家族や女性の来場者も多く、伝統工芸に親しみを持ってもらうきっかけになっているものと感じています。

では、今年の千年未来工芸祭についてご説明いたします。

開催日時は、8月24日、25日の2日間で、1日目は10時～18時、屋外は21時まで、2日目は10時～17時までです。

会場は越前市アイシンスポーツアリーナと多目的グラウンドをクラフトマーケットエリア、ワークショップエリア、オアシスエリア、の3つに分けてプログラムを実施します。

アイシンスポーツアリーナに配置されたクラフトマーケットエリア、ワークショップエリアでは、全国各地の工芸、ハンドメイドクラフト、ファッション、アート、アクセサリーなどの作り手が集結し、今年も夜市をモチーフとした非日常的な空間で、特別な逸品や子どもから大人までが楽しめる体験ブースが並びます。

多目的グラウンドでは、キッチンカーを集結させ、来場者のみなさんを食でおもてなしします。

今年は、157事業者の方に出展いただくことになり、昨年より、さらに大きな賑わいとなることを期待しています。

それでは、今年の特徴について、本イベントのプロデューサーである株式会社ヒューズの内田さんから説明いただきます。

・内田プロデューサー

今年の特別展示として、サントリーウイスキーのラベルを手掛けられておられる、大阪市の寿精版印刷株式会社様にご出展いただくことになりました。

寿精版印刷株式会社様は、ラベルの紙に越前和紙を使用されており、越前市に大変ゆかりのあるお会社です。

今回は高級ウイスキー「響」の展示の他、農薬と化学肥料を一切使用しない「コウノトリ呼び戻す農法」で栽培された酒米を使って片山酒造さんが醸造された純米吟醸酒「かたかた」を越前産の大麦を混抄した、オリジナルの越前和紙を使用したラベルで販売されることになっています。

また2つ目として、昨年、大変好評をいただいた海外クリエイターの出展が本年も実現しました。

今年は、香港から2名の方に出展いただくことになっています。

普段、なかなか目にすることがない海外クラフト作家の作品を実際に手に取っていただき、作家さんとの交流を楽しんでいただきたいと思います。

さらに、「若手職人チャレンジ作品発表」として市内伝統工芸3産地の若手職人13人が集まり、自らのアイデアで製作した作品を展示販売するコーナーを今年も実施します。

以上が、今年の概要の説明になります。

・山口実行委員長

モノづくりに関心のある方も、まだない方も、これからの工芸を感じていただきたいので、是非、千年未来工芸祭に足を運んでいただき、工芸や作り手のことをより深く知っていただきたいと思います。

ご来場いただいた皆様楽しんでいただけるよう、実行委員会一同頑張っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

●市長コメント

千年未来工芸祭は、越前市が誇る伝統工芸「越前和紙」、「越前打刃物」、「越前指物」の各組合のご協力のもと、山口実行委員長を筆頭に、これからの産地を担う若手職員の方々と組織された実行委員会が、何度も打ち合わせを重ね、準備を進められていると伺っております。

また、企画等をプロデュースいただいている株式会社ヒューズの内田様をはじめ、多くの方々のお力添えをいただいていると伺っており、このイベントに関わっておられる、すべての方に敬意を表するところです。

昨年県内外から多くの方に来場いただき、本市の誇る伝統工芸をはじめ、全国各地の工芸品やクラフト製品といった「ものづくり」に触れることができるイベントとして定着し、多くの方に楽しんでいただいたものと感じております。

7回目となる今年は、北陸新幹線県内開業もあり、これまで以上に県外から注目をされるイベントになっていくと期待をしております。

今後も、このイベントが、多くの方に伝統工芸の世界を知っていただくきっかけとなり、その名のとおり、本市の誇る伝統工芸が千年先の未来へと継承されることを願っております。

(2)自動運転の実証実験について(資料2)

市民の移動を支えるバス、タクシー業界では、近年の深刻な運転手不足により、市民の交通手段の確保が課題となっています。

本市では、運転手不足対策として、新しい交通の一つである「自動運転」の導入を提案してまいりましたが、今回、国土交通省の「地域交通確保維持改善事業費補助金」の採択を受けることができましたので、この補助金を活用し、自動運転の実証実験を今年10月に行いたいと考えています。

(自動運転の映像放映)

ご覧いただいた映像が、NTT様が作成した、自動運転で公道を走っている映像となります。本市が予定している実証実験でも、このような10人乗りの自動運転車両を使用し、実際に公道を走って実証実験を行う予定です。

運行区間は、市役所を出発しハピラインふくい武生駅のロータリーを回り、総社大神宮まで直進、左折し、まちづくり武生の交差点を左折し、さらに左折して蔵の辻を通り、市役所まで戻ってくる約1.2キロのルートを予定しています。

また、今回の実証実験では、部分的な自動運転となる「レベル2」ですので、運転手が車両に乗り込み、一部手動での運転になります。将来的には、永平寺町様で行われている「レベル4」の高度運転自動化を目指しています。また、開発が進む「越前たけふ駅」周辺での導入についても、可能性を検討していきたいと考えています。

なお、自動運転の実施に当たりましては、NTT西日本福井支店様、福井鉄道様、越前市の3社の共同企業体で行ってまいります。

10月21日(月)には、3者そろって出発式を行い、関係者の試乗運行を行った後、10月22日～26日までは市民向けの試乗会を予定しています。一般運行に関しては、詳細が決まり次第、お知らせいたします。

(3)インバウンド推進事業(資料3)

7月補正予算にて、インバウンド推進事業として、地域資源を活用した商品造成のためのモニターツアーを実施するため、事業費38,057千円を計上いたします。

今年4月に開催した「国際木版画会議」にあわせ、市が辻を中心に行われた外国人参加者向けの市民交流会では、

寺院で琴、尺八演奏、日本舞踊の鑑賞を行ったところ、まちなかの「風情」なども高く評価されました。

そのため、外国人観光客をターゲットに、地域資源を活用した実証実験としてのモニターツアーを行うため、官公庁の補助金を活用し、市の負担なしで事業を実施してまいります。

モニターツアーでは、旅行者や専門家からのご意見をお聞きしたうえで、旅行者にて本ツアーを造成いただき、越前市へのインバウンド誘客の拡大を図ってまいります。

なお、本ツアーでは、特別な体験メニューとして、通常では開催していない、夜の「たけふ菊人形」を貸し切りとし、自動運転モビリティ(iino)に乗って、菊を鑑賞するほか、雅楽演奏や平安時代の食事を再現した料理などを想定しています。

(4-1)第 19 回越前市サマーフェスティバル(資料4-1)

今年も 8 月 14 日と 15 日に、越前市サマーフェスティバルを開催します。今年の特徴としましては、14 日に、「世界のふるさと祭り」をテーマに、サンバカーニバルのほか、世界のビールやブラジル料理の販売、サンバのミニレッスンなど、多文化共生イベントを実施します。お互いの国籍や文化を認め合い、「ふるさと」の魅力を共有し合うことで、共に支え合って生活する地域社会を目指します。

そのほか、ふるさと踊りでは、「紫式部音頭」を新たに追加し、5 曲での踊りとしました。

また、大河ドラマ館との連携として、通常開催していないナイト営業を実施するほか、入場料も無料とします。

花火大会は、北陸新幹線福井開業を記念したミュージック花火を打ち上げるなど、今年も趣向を凝らした内容としています。

(4-2)市公認 VTuber がサマーフェスティバルに初出演(資料4-2)

令和 6 年 1 月 30 日にミュージックビデオを公開した、越前クロニクル「かぜゆかり」が、8 月 15 日開催の花火大会の「ミュージック花火」の楽曲に採用されることが決定しました。

また、越前市公認 VTuber「若紫まい」と「紫式部」の二人が、武生中央公園のサマーフェスティバル花火大会サブ会場で花火の実況中継を実施するなど、新しい企画で会場を盛り上げます。

「紫式部」は、一時的に活動を休止していましたが、明日(7 月 24 日)から新たなアクターにより活動を再開します。

「若紫まい」とともに、特に若者への認知度向上を目指して、引き続き本市の魅力を発信してまいります。

(5)市職員がごみ分別動画を作成(資料5)

本日、市の若手職員がフリー素材を使って作成した動画を越前市公式 YouTube チャンネルに公開しました。

市には連日ごみ分別についての問い合わせが多くあるほか、ごみ分別出前講座で地区などに出向いて説明を行っています。その際、同じような質問をされることや、毎回同じ説明を行っていることなどに着目し、町内などでも簡単にごみの分け方を確認できるようにするにはどうしたらよいかを考え、一つの業務改善として若手職員が作成したものになります。

多言語翻訳を視野に入れていたことから、分かりやすい日本語で作成し、子どもからお年寄りまで親しみやすい作りになっています。

(1 分半のダイジェスト版 YouTube 動画放映)

ご覧いただいた内容は 1 分半ですが、公開した動画は基本のごみの出し方すべてを網羅し、15 分半となっています。

今後は、地区の集まりや、企業などで活用いただくとともに、家庭などでいつでも見ることができるよう、広報紙やホームページなどで周知していく予定です。

また、今回公開した内容は基本的な内容ですので、今後は、よく迷うごみの出し方など、応用編にも展開していければと思っています。

質疑応答

(1)発表項目1について

【質疑】

高級ウイスキーや純米酒の販売はありますか。

【回答】

・内田プロデューサー

展示と販売を予定しております。

【質疑】

海外クリエイターの方について、どのような方が来られるのでしょうか。

【回答】

・内田プロデューサー

デュランさんとヴィゼラさんというお二人が来られます。

デュランさんは昨年も来ており、越前市の職人さんと一緒に開発もしています。

もう一方のヴィゼラさんはデュランさんとながりのあるクリエイターさんで、越前和紙に興味があるということです。工藝祭の次の日にマテリアルツアーというものを企画しており、越前和紙の産地をみてもらうことで、事業者とながりが生まれるとよいなと思っています。

(2)発表項目2について

【質疑】

部分運転自動化とありますが、どういったところで手動操作になるのでしょうか。

【回答】

運転できる人が乗車し、障害物が現れた時や、危険な場所ではいつでもコントロールできるような状態になっています。

【質疑】

実証実験での運賃は必要でしょうか。

【回答】

現在、無償で考えております。募集の方法や時間帯等々についてはこれから検討して改めてご連絡します。

【質疑】

一部手動運転とありますが、武生駅前のロータリー部分については、障害が多いからということでしょうか。

【回答】

送迎の車が止まっている場合や、横断歩道がありますので、安全のために手動で行います。

【質疑】

レベル4を目標としたいということでしたが、スケジュール感としていつごろまでにレベル4に持っていきたいと考えていますでしょうか。

【回答】

あまり細かいスケジュール感は持っていませんが、今回の実証実験でうまくいけば、レベル4につながっていくと考えています。初めてやることでもあるので、いきなりレベル4というのはハードルも高いため、やれることからまずは1歩ずつ進めていきたいと思っています。

【質疑】

越前市として、新幹線の駅と、武生駅の間をどうマネジメントしていくか課題だと思いますが、将来的にはいい成果が上げられたら、そちらの区間に導入していくことも考えていますでしょうか。

【回答】

1つの理想だと考えています。ただ、道路や橋などハード面での環境が自動走行に合うかどうかといった課題があります。将来の理想の姿としては、新幹線駅と武生駅の間を自動で往復するようなものができるとすごく利便性が高まる

のではないかと考えています。

【質疑】

システムの部分で、電磁誘導線などを埋めて走行するのではなく、カメラだけで動くのでしょうか。

【回答】

GPS とカメラで動きます。

【質疑】

福井鉄道のたけふ新駅と中央公園を入れるべきだと考えますがいかがでしょうか。

【回答】

中央公園までの距離があり、コントロールが難しいことや、車の通りが激しいこともあり、最初は安全性が高い場所で実施をしようということになりました。

【質疑】

今回、まちなかで導入することを想定した実証実験なのか、他のところも選択肢に入れた考えなのでしょうか。

【回答】

いくつかの実証実験の目的があると思いますが、1つは、いろんな地域の交通システムや安全性の確保の部分で自動運転を受け入れるにあたっての課題を抽出するという面があります。あとは、武生駅前の場所は市民にとってなじみのある場所で、そこを走らせることは市民の皆さんにとってもよいアピールの場になると考えています。